

医療法人久遠会 災害対応マニュアル



鎌田内科クリニック

老人保健施設銀楊

銀楊居宅介護支援事業所

平成 28 年 11 月

目 次

第1章 想定される災害～立地環境と災害予測

第2章 災害時の対応・体制

1. 災害時における緊急の組織体制
2. 緊急連絡図
3. 情報の収集と提供
4. 応急救護・初期消火・避難等
5. 復旧対策
6. 防災訓練・防災教育

第3章 平常時の災害対策

1. 災害対応マニュアルの活用
2. 施設内の安全化
3. 緊急連絡、災害対応組織体制
4. 利用者の安否確認及び保護者等との連絡体制の確立
5. 施設外の避難場所への避難誘導
6. 防災資機材等の備蓄
7. 災害発生時の対応

第4章 地震対策

1. 地震発生時の特徴
2. 地震発生時の対応策

3. 夜間における地震発生
4. 施設が使用不能となった場合
5. 施設外活動時や送迎時に地震が発生した場合

第5章 風水害対策

1. 警報等発令時の指示体制の周知と情報伝達
2. 警報等発令時の役割分担別の準備
3. 警報等発令時の安全対策の実施
4. 災害発生時の特徴
5. 災害発生時の対応策
6. 施設が使用不能となった場合

災害発生時の対応について、

以下の優先順位を心構えとして持っておく必要がある。

- 1 自 助：各施設において、日頃から災害に備えたり、災害時の職員による火元の点検、入所者等の安否確認、初期消火等自らの努力で対応する。
- 2 共 助：地域、自主防災組織、ボランティア等の協力を得て対応する。
- 3 公 助：公的機関の応援を求める。

第1章 想定される災害～立地環境と災害予測

(「盛岡市地域防災計画」より抜粋)

1. 立地環境

- ①地形： 盛岡市の市街地の大半は、北上川・雫石川・中津川などの河川が運んできた砂礫によって形成された扇状地及び段丘上に位置し、地盤は比較的良好であるが、複数の活断層が存在する。

市内の氾濫原・平野は主に、雫石川沿岸及び北上川・雫石川・中津川の合流地周辺から南の北上川沿岸に分布しており、広い範囲で降雨があると、雨水が集中、これらの地域は洪水被害を受けやすい。

- ②気象： 昭和56年～平成22年の盛岡市の気象は、下記のとおり。

平均気温 (℃)	最高気温 (℃)	最低気温 (℃)	最多 風向き	平均風速 (m/s)	年間降水量 (mm)	積雪日数
10.2	36.4	-16.2	南	2.9	1266.0	88.2

(薮川 - 27.6)

2. 盛岡市の災害発生状況

- ①風害～盛岡市に記録されている風害は12事例。主に冬期から融雪期に発生。これは、強い冬型の気圧配置により強い季節風が吹いたためと考えられる。

- ②水害～盛岡市では、過去に水害が多く、明治以降でも数年おきに発生し、その被害は市中心部の市街地とその周辺の平地に集中している。

また、水害が発生するような台風や梅雨前線等の大雨では、土砂災害や風害を併発する傾向がある。

盛岡市の水害事例としては、人的被害、河川橋梁流出・落下、家屋浸水、道路決壊等がある。特に多大な被害を与えた水害としては下記のとおり台風や前線、大気不安定によるものである。

昭和22年9月	加リソ台風	死者4名、床上浸水2043戸、床下浸水2659戸、流出家屋37戸
昭和23年9月	アイハ台風	全壊家屋2戸、床上浸水155戸、床下浸水343戸
昭和34年9月	伊勢湾台風	半壊家屋1戸、床上浸水53戸、床下浸水378戸、道路損壊1、河川橋梁流出3、堤防決壊2、山崩れ2、罹災世帯59290戸
昭和41年6月	台風4号	床上浸水275戸、床下浸水521戸、道路損壊23、橋梁流出3、土砂崩れ3
昭和56年8月	台風15号	床上浸水27戸、床下浸水22戸、道路損壊10
平成14年7月	台風6号	床上浸水21戸、床下浸水147戸、道路損壊62、橋梁損壊2、堤防崩壊2
平成19年9月	秋雨前線	死者1名、床上浸水7戸、床下浸水82戸、国道106号・396号通行止め、市道冠水・法面崩壊等74、農地等被害多数
平成25年8月	大気不安定	全壊5戸、大規模半壊2戸、半壊13戸、床上浸水9戸、床下浸水171戸、道路・橋梁等被害171、農地法面崩壊等912、土砂崩れ・河川被害等多数
平成25年9月	台風18号	全壊2戸、大規模半壊17戸、半壊52戸、床上浸水1戸、床下浸水30戸、一部損壊3戸、道路・橋梁等被害112、農地等法面崩壊・土砂流入等612、その他農業機械・畜産関係被害多数

- ③土砂災害～一般に土砂災害の発生は、台風・豪雨時及び地震時に多く発生するが、盛岡市における土砂災害は、すべて降雨を誘因としている。被害内容は、畑や果樹園周辺の自然斜面や法面が崩れたことによる土砂の家屋への流入、道路法面の崩壊などが多い。
- ④火山災害～盛岡市の中心から北西方向約 20 kmに位置する岩手山の噴火活動については、1686 年以降の記録が残されており、これまでの約 300 年に 14 回の火山活動が記録されているが、いずれも被害内容は不明。
- ⑤大火災～盛岡市において発生した大火については、1729 年以降、300 戸以上焼失した火災が 7 回発生している。4 月・11 月の乾燥又は強風時に発生している。

第 2 章 災害時の対応・体制

1. 災害時における緊急の組織体制

(1) 災害対策室の設置時期

※災害対策室は、震度 5 以上の地震、その他の大災害発生時に設置。
(理事長の指示による。理事長不在時は、職位最上位の者が判断。)

(2) 対策室の設置場所 : 老人保健施設銀楊 事務室

(岩手県盛岡市本宮 2-20-10)

必要な機材	電話機・携帯電話・複合機（ファックス・プリンター）・パソコン・事業所付近の地図・防災マップ・事業所配置図・事業所平面図・組織図・利用者名簿・職員名簿・救急箱・飲料水・非常食料・毛布等
-------	---

(3) 組織の任務

- ①被災状況(災害発生地、施設内外の状況等)の情報収集、記録・報告
- ②災害対策上の重要事項の決定、指示・命令、発表
- ③利用者の安否確認
- ④職員の安否確認
- ⑤職員の出勤・帰宅についての安全確認・指示
- ⑥救出・救助の応援・指示（関連施設含む）
- ⑦岩手県・盛岡市等関連機関及び関連組織との情報交換、支援要請

(4) 組織内容 (自衛消防組織を基本とする)

災害対策室(自衛消防組織を基本とする)

室 長 理事長	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%; text-align: center;">組織の任務</td> <td> 1. 被災状況(災害発生地、施設内外の状況等)の情報収集、記録・報告 2. 災害対策上の重要事項の決定、支持・命令、発表 3. 利用者の安否の把握 4. 職員の安否の把握 5. 職員の出勤・帰宅についての安全確認、指示 6. 救出・救助の応援・指示(関連施設含む) 7. 岩手県・盛岡市等関係機関及び関連組織との情報交換、支援要請 </td> </tr> </table>	組織の任務	1. 被災状況(災害発生地、施設内外の状況等)の情報収集、記録・報告 2. 災害対策上の重要事項の決定、支持・命令、発表 3. 利用者の安否の把握 4. 職員の安否の把握 5. 職員の出勤・帰宅についての安全確認、指示 6. 救出・救助の応援・指示(関連施設含む) 7. 岩手県・盛岡市等関係機関及び関連組織との情報交換、支援要請
組織の任務	1. 被災状況(災害発生地、施設内外の状況等)の情報収集、記録・報告 2. 災害対策上の重要事項の決定、支持・命令、発表 3. 利用者の安否の把握 4. 職員の安否の把握 5. 職員の出勤・帰宅についての安全確認、指示 6. 救出・救助の応援・指示(関連施設含む) 7. 岩手県・盛岡市等関係機関及び関連組織との情報交換、支援要請		
副 室 長 統括部長			
通報連絡班 防火管理者	避難誘導班 看護師長		
事務職員	看護・介護職員		
通報連絡班の業務	避難誘導班の業務		
1. 通報・警備設備の管理 2. 通報連絡 3. 屋内外の電気配線の良否 4. 記録	1. 避難施設の確保 2. 避難設備の管理 2. 避難設備の管理 3. 出入者の安全避難 4. 残留者の検索 5. 負傷者の救護 6. 防火戸の開閉		
消火工作班 管理栄養士	警戒班 介護支援専門員		
調理職員	用務員		
消火工作班の業務	警戒班の業務		
1. 消火設備の管理 2. 消火活動 3. 公設消防隊の誘導 4. 非常電源	1. 建物内外の可燃物の除去 2. 火気使用器具の点検 3. 飛び火の警戒		
搬出班 作業療法士 理学療法士			
搬出班の業務			
	1. 重要書類及び物品の搬出 2. 搬出物品の保管監視		

2. 緊急連絡図

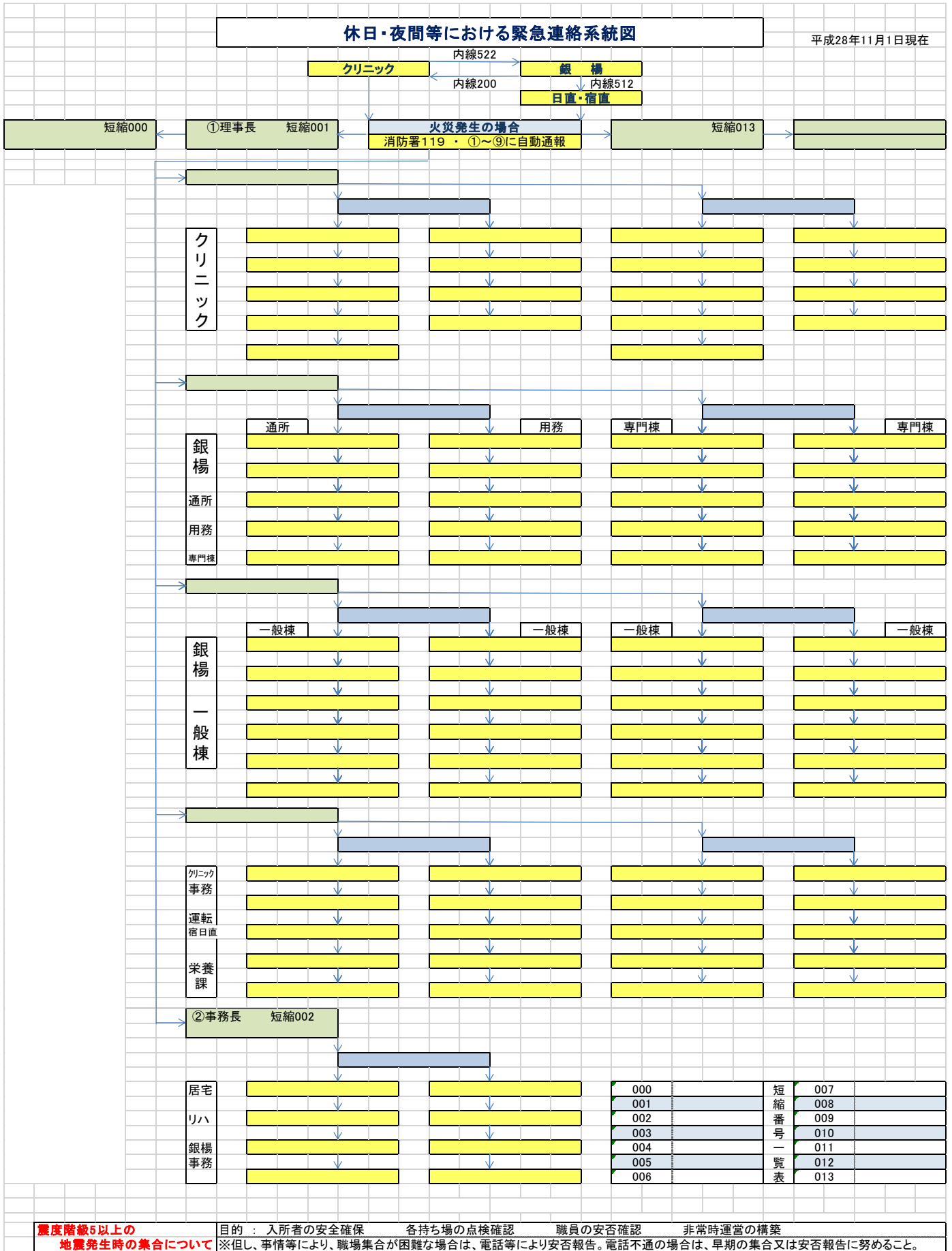
(1) 緊急連絡(利用者、職員の安否確認・緊急動員)

大きな災害に見舞われた時に、速やかに連絡や安否確認ができるよう、「休日・夜間等における緊急連絡系統図」を使用する。

(2) 留意事項

- ①災害が発生した時、速やかに指定された次の職員に連絡。
- ②連絡は簡潔に。長電話は避けること。
- ③連絡系統図で指定された職員と連絡が取れない時は、その職員をとばして次の職員へ。
- ④連絡が取れない職員については、各部署の所属長が継続して行う。
- ⑤被災してケガをしたり、被害を受けた職員に対し、必要なサポートを行う。

(3) 休日・夜間等における緊急連絡系統図



3. 情報の収集と提供

(1) 収集方法等

情報収集の項目	情報収集の方法・担当者
職員の安否確認	・ 休日・夜間等における緊急連絡系統図により電話確認
被害状況の把握と記録 (建物・設備・物品等)	・ 事務職員が収集 ・ 関係業者に被害調査を依頼
ライフラインの被害状況 (水道・電気・ガス・電話等)	・ 事務職員が収集
連絡 (関係機関) (その他業者関係)	関係機関一覧表を作成する。 その他関係業者一覧表を作成する。

(2) 留意事項

- ①職員の安否確認を行う。(建物内の職員、外出中の職員)
- ②けが人の有無を把握し、必要者応急措置を行う。
- ③収集した情報は、銀楊事務室前にまとめて張り出し、誰でも見ることができる状態にして、情報の一元管理を行う。
- ④災害対策用の職員の招集と、自宅待機職員の振り分けを行う。
- ⑤勤務時間外に発生した場合には、参集者で災害対策室を立ち上げる。

(3) 関係機関一覧表

情 報	機 関	名 称	電話番号
行政情報	消防	盛岡中央消防署	6 2 2 - 0 1 1 9
	警察	盛岡東警察署	6 0 6 - 0 1 1 0
		盛岡東警察署おおみや交番	6 3 6 - 3 1 3 0
	盛岡市	介護保険課	6 2 6 - 7 5 8 1
		地域福祉課	6 2 6 - 7 5 0 9
		危機管理防災課	6 0 3 - 8 0 3 1
	県	長寿社会課	6 2 9 - 5 4 3 5

(4) 関係業者一覧表

情 報	機 関	名 称	電話番号
ライフライン	電気	東北電気保安協会 〃 電気事故受付センター 契約番号：BAH3020	6 3 1－2 5 5 1 0 8 0 0－7 7 7－9 0 0 7
		興和電設	6 2 3－6 4 6 1
		ユアテック	6 4 1－9 0 7 0
		エンゼル家電	6 3 5－7 7 1 1
	ガス	盛岡ガス	6 5 3－1 2 4 1
	水道	盛岡市水道部	6 2 3－1 4 1 1
	電話	NTT 東日本 固定電話から 固定電話以外	1 1 3
			0 1 2 0－4 4 4－1 1 3
建物・設備	建物	(株)タカヤ	6 5 9－2 8 1 1
	水廻り	興盛工業所	6 4 1－5 5 1 1
	ボイラー	岩昭機工	6 3 8－2 7 1 0
		(夜間)	6 6 2－8 1 9 5
		三浦工業	6 5 6－5 3 0 1
	洗濯機 ・乾燥機	アサヒサービス	6 3 7－2 3 4 1
	エレベータ	オーチスエレベータ	0 1 2 0－3 2 4－3 6 5
		〃 盛岡事務所	6 5 4－7 5 6 7
	自動ドア	クリニック：フルテック	6 3 5－5 1 8 6
		銀楊：岩手ナブコ	6 3 7－5 5 1 1
	消防設備	松栄商事	6 2 3－4 3 6 4
	濾過器	ナカテック	6 6 4－6 2 3 3
	酸素ボンベ	日興酸素	6 4 1－8 7 7 1
	一般ごみ	芦名商会	6 7 6－6 4 0 6
	医療廃棄物		
	感染性 医療廃棄物	福興産業	6 2 5－0 9 0 0
	トイレ	TOTO・INAX 快適	6 3 5－4 0 1 1
	カーテン	キングラン東北	6 1 3－2 7 8 8
	車両	白石自工	6 3 5－1 1 2 1
		日産プリンス	6 3 5－2 3 3 3

4. 応急救護・初期消火・避難等

(1) 初期活動一覧表

応急救護	職員による応急措置	<p>(1) 鎌田内科クリニック医師による応急手当。</p> <p>(2) 看護職員による応急手当。</p>
	医療機関への搬送	<p>(1) 119番通報により、救急車を要請する。</p> <p>※同時多発災害の場合は、施設車で最寄りの病院へ搬送する。(鎌田内科クリニック医師による指示がない場合は、盛岡市立病院が最寄りの病院である。)</p>
初期消火	火の始末	<p>(1) 地震の揺れが止まってから、火気使用場所を点検する。</p> <p>【点検箇所】</p> <p>・厨房、ボイラー室、洗濯室</p>
	初期消火	<p>(1) 火災を発見した場合は、大声で周囲の人に知らせる。</p> <p>(2) 119番通報。</p> <p>(防災監視盤が火災を感知した場合は、自動で通報装置が作動する。)</p> <p>(3) 火災が大きくないうちに、初期消火に努める。</p> <p>(消火器、補助散水栓、バケツ等)</p> <p>(4) 大地震の場合には、消防車の到着が遅れることを考慮すること。</p>
避難等	避難誘導	<p>(1) 避難の必要が生じた場合は、避難誘導に従い、落ち着いて行動する。</p> <p>(2) 外来者は不慣れであるので、避難誘導にあたっては特に気を付けること。</p>
	避難場所	<p>(1) 火災時～原則として屋外へ出るものとする。</p> <p>出火場所により、鎌田内科クリニックあるいは老人保健施設銀楊への平行移動・防火戸の閉鎖により、エレベータの使用等により、避難時間の延長が可能であること。</p> <p>(2) 洪水時～原則として、盛岡市指定の避難所。</p> <p>【指定避難場所】</p> <p>①本宮地区活動センター (収容人数 147 人) 盛岡市本宮 4-38-26 Tel636-3546</p> <p>②盛岡市立本宮児童・老人福祉センター (収容人数 117 人) ※①に隣接 盛岡市本宮 4-38-26 Tel635-4595</p> <p>③アイスアリーナ・総合プール (収容人数 3,901 人) ※支援物資搬入施設 盛岡市本宮 5-4-1 Tel658-1212</p>

		<p>④大宮中学校 (収容人数 10,817 人) 盛岡市本宮字大宮 5-1 Tel636-3926</p> <p>※下記⑤・⑥は指定避難場所</p> <p>⑤岩手県工業技術センター (収容人数 649 人) 盛岡市北飯岡 2-4-25 Tel635-1115</p> <p>⑥盛岡高等養護学校 (ハザードマップ上の標記) (現岩手県盛岡峰南高等支援学校) (収容人数 2,467 人) 盛岡市下飯岡 11-152 Tel639-8515</p> <p>※必ず、指定避難所に避難しろということではないこと。 ※指定緊急避難場所は、洪水・がけ崩れ・地震・大規模な火事・火山といった異常な現象別に区分されており、必ずしもすべての災害に対応できる施設であるとは、限らないことを留意し、家庭内でも話し合い、理解する必要があります。</p> <p>留意事項</p> <p>①平成 28 年 3 月現在、上記避難場所を対象とする仙北 1 丁目～仙北 3 丁目、東仙北 1 丁目～2 丁目、西仙北 1 丁目～2 丁目、本宮 1 丁目～4 丁目の住民の数は、15600 人を超えており、小学校・中学校・幼稚園・保育園・病院・診療所等を含めると①～④の収容人数を上回ること。</p> <p>②また避難場所が障害者・要介護者の利用を考慮していても、収容は考慮していないこと。</p> <p>③ハザードマップ自体が、地域の現状に合わせて更新されていないこと。</p> <p>④避難計画の更新と合わせて現状を考慮した法人独自の協定等による避難場所を確保する必要があること。</p> <p>(3) 地震時～まず、自分の身の安全を図る。</p>
	非常持ち出し	非常持ち出しリストを作成する。

(2) 地震発生時の心得

【 地震の心得 10 か条 】

① まず、わが身の安全を図る

地震が発生したら、まず、丈夫なテーブル・机などの下にもぐって身を隠し、しばらく様子を見ます。(窓ガラスから離れること)

② 揺れが止まってから、火の始末

地震を感じたら、火の周辺には近づかず、揺れがおさまるのを待ってから、落ち着いて火の始末をします。(炎や熱湯による、やけどの発生を防ぐ)

③ 火が出たら、まず消火

万一、出火した場合には、初期のうちに火を消すことが大切。周囲に声を掛け合い、みんなで協力して初期消火に努めます。大地震で恐ろしいのは火災です。

④ あわてて外に飛び出さない

屋外は、屋根瓦、ブロック塀、ガラスの飛散など、危険がいっぱい。揺れがおさまったら、外の様子を見て、落ち着いて行動します。

(外に出るときは、ヘルメットや頭巾などで頭を守りましょう。)

⑤ 危険な場所には近寄るな

危険な場所(狭い路地、塀ぎわ、ブロック塀のそばなど)にいるときは、急いで離れましょう。

⑥ がけ崩れ、津波などに注意

がけ崩れ、津波などの危険区域では、安全な場所にすみやかに避難します。

⑦ 正しい情報で行動

テレビやラジオ、防災機関からの信頼できる情報に基づき行動しましょう。デマに惑わされないよう注意します。

⑧ 人の集まる場所では、時に冷静な行動を

あわてて出口や階段に殺到せず、係員の指示に従いましょう。

⑨ 避難は徒歩で、持ち物は最低限に

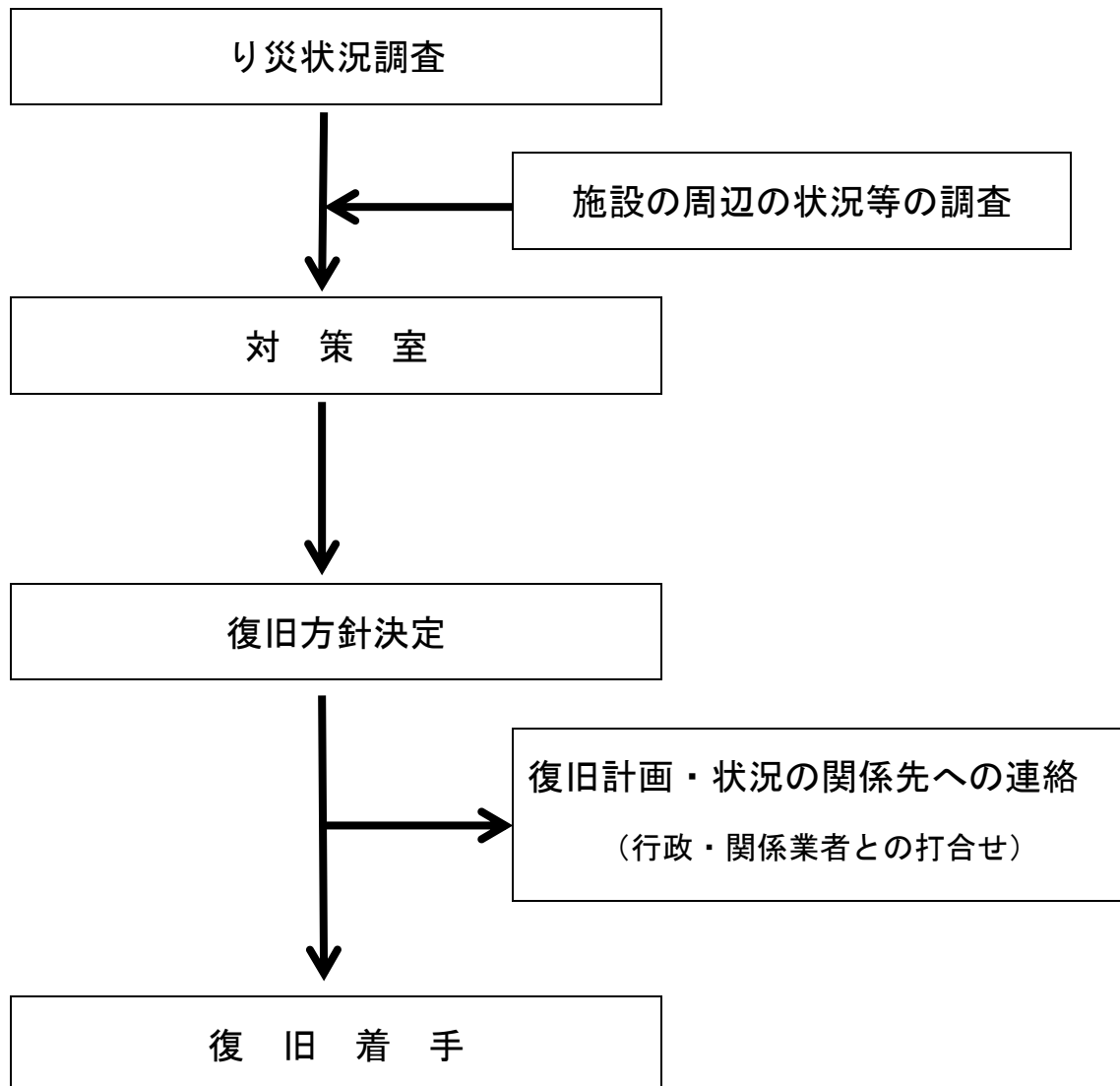
避難は徒歩で(車、自転車は使わない)。身軽に行動できるよう、荷物は必要最小限にとどめます。荷物は背負うなどして、両手を使えるようにして空けます。

⑩ 自動車は、左に止めて停車

カーラジオの情報に注意し、勝手な走行はしない。走行できない場合は、左に寄せて停車し、エンジンを止める。車を離れて避難するときは、キーを付けたままで、ドアをロックしない。車検証などの貴重品を忘れず持ち出して、徒歩で避難します。

5. 復旧対策

(1) 復旧の流れ



(2) 留意事項

- ①事務室が使用不能時には、仮事務所を確保。
 - ・ 第1 候補 クリニック 3 階会議室
 - ・ 第2 候補 居宅介護支援事業所 2 階
- ②り災建物の警備体制を確保する。
- ③被災事業所が所在する地域の救援活動（および復旧計画）に、進んで協力する。
- ④避難場所の提供に協力する。

6. 防災訓練・防災教育

・避難誘導にあたっては、利用者の障害の特性に応じた適切な対応を行うことができるよう、避難訓練時にこれを考慮した計画を立案する。

※【対応例】

- ・自力歩行が困難な方の避難誘導
- ・口頭の呼びかけだけでは避難の必要性が伝わらない方への避難誘導
- ・パニックなどによる2次災害の防止など
- ・職員だけではなく、利用者・家族への防災に関する情報の提供を行う。
- ・防災訓練の内容は、実際に起こりうる災害を想定し、防災計画で計画された組織が実際に機能するかどうかを確認できる訓練内容とする。
- ・福祉避難所として機能することを考慮し、被災者の受け入れ人数、受け入れ場所、食事・入浴等の提供など、総合的な見地から検討する。
- ・地域住民に対し、万が一の際に相互協力ができる関係の構築を目指す。

(1) 防災訓練・避難訓練

有事の際に迅速かつ的確に行動ができるよう、防災訓練を行う。

- ・訓練には、次の事項を盛り込む
 - ①地震発生時の初期対応に関すること
 - ②災害対策室の設置及び運用に関すること
 - ③情報の収集、伝達に関すること
 - ④火災発生時の対応に関すること
 - ⑤救出・救護に関すること
 - ⑥通報・初期消火・避難に関すること
 - ⑦水害等の災害に関すること

(2) 防災教育

- ・施設内で実施する研修計画に次の項目を盛り込む。
 - ①当法人の防災マニュアルについて
 - ②職員の任務と行動基準について
 - ③災害の一般知識について（地震、水害、火災等）
 - ④応急処置について

(3) その他

消防機関などが行う講習会への参加や、県・市町村が行う防災講演会・講習会などに参加し、防災意識の向上を図る。

第3章 平常時の災害対策

1. 災害対応マニュアルの活用

入所者や職員の命を守るとともに、サービスの早期再開を図るため、消防法に基づく「消防計画」にとどまらず、地震や風水害などの大規模災害の発生を想定して策定した者が「災害対応マニュアル」です。

災害発生時の混乱時にも、利用者の障害の特性や、施設の糧もの・立地、周辺の交通環境などの状況に応じ、迅速・円滑かつ的確に必要な対応をとるためのマニュアルです。

したがって、防災訓練等の機会に、定期的に見直しを行い、マニュアルの内容がより具体的かつ実践的になるように調整し、その情報を共有していくことが大切です。

職員に対しては、災害発生時の参集、初期対応などを定めています。また、職場研修や防災訓練などを通じて、周知徹底することを図っています。利用者に対しては、災害発生時の避難経路や緊急連絡先等をあらかじめ周知徹底することを図ります。

さらに、大地震など広域的な大規模災害の備えとして、被災者の受け入れや職員の派遣等を今後の計画の中で想定していきます。

2. 施設内の安全化

災害発生時に自らの安全を確保できない利用者のため、いざという時に備えて安全な施設環境を整備します。

(1) 耐震化対策

震災時の安全を図るため、必要に応じて専門家による点検や対策を行います。

- ①建物全般の定期点検
- ②屋外での看板、ガラス等の落下・転倒防止対策
- ③施設内での備品等の転倒防止対策
- ④火気使用設備、危険物施設、消防用設備等の安全確認と点検
- ⑤情報機器類（パソコン、コピー機等）の安全設置対策（地震のゆれによる移動の防止等）

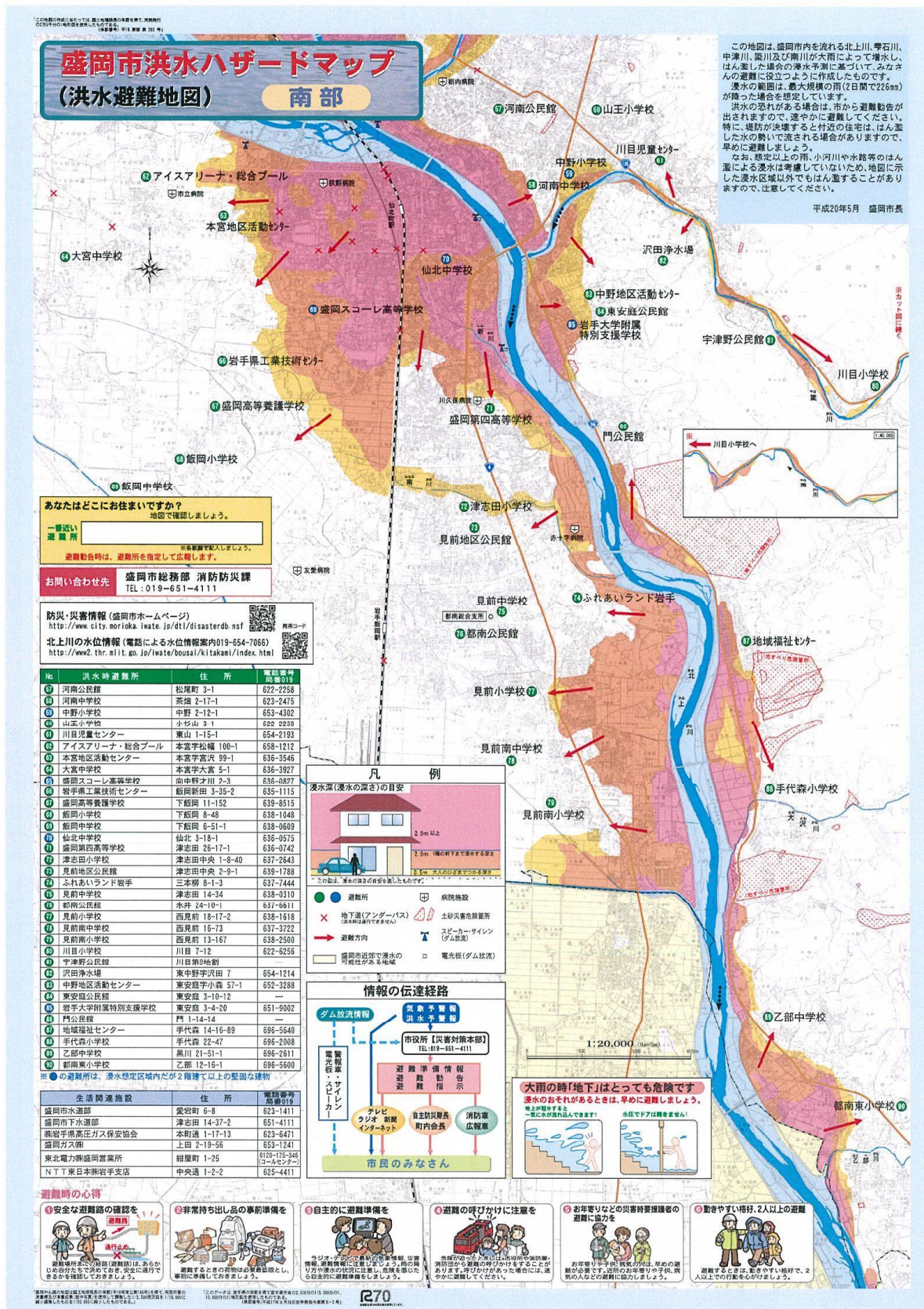
(2) 施設の立地環境を踏まえた、風水害への予測と対応

- ①風水害などの災害は、ある程度は施設が立地している地盤や地形などの環境から、予測できます。
- ②台風や集中豪雨などによる水害の予測については、盛岡市が作成した「盛岡市洪水ハザードマップ」により、確認できます。当法人の所在地は「南部」で確認します。

(3) 非常用「自家発電装置」等の設置（現在は未設置です。）

停電時の人命にかかわる事故を未然に防ぐため、喀痰吸引等を必要とする方等に対応するため、非常用自家発電装置の設置により備えを万全にできるよう設置を検討します。

【参考資料】 「盛岡市洪水ハザードマップ」(南部)



～盛岡市からのお知らせです～

水害や土砂災害から命を守るために！

～社会福祉施設など災害時要配慮者利用施設の管理者の皆様へ～

ステップ

①

施設の立地場所に、どのような危険があるのか確認しましょう

- 盛岡市が作成しているハザードマップや地域防災計画を見て、河川が氾濫した場合には何m浸水してしまうのか、土砂災害が起こりやすい場所ではないか等、施設の立地場所には、どのような危険があるのか確認しましょう。
- 盛岡市が指定している避難場所等※1を確認し、そこまでの経路や移動手段について計画しておきましょう。

＜盛岡市防災マップ・ハザードマップ＞

http://www.city.morioka.iwate.jp/kurashi/anzen_anshin/hazardmap/index.html

＜指定緊急避難場所・指定避難所＞

http://www.city.morioka.iwate.jp/kurashi/anzen_anshin/shiteihinanbasho/index.html

※1 災害種別ごとに異なりますので、ご注意ください。

ステップ

②

盛岡市から発令される避難情報※2について確認しましょう

- 盛岡市から発令される避難情報には、以下のものがあります※3。

避難準備情報

・立ち退き避難の準備を整えます。
・気象情報、水位情報に注意を払い、自発的に避難の開始することが望ましいです。

避難勧告

・災害による被害が予想され、人的被害が発生する可能性が高まっています。
・予想される災害に対応した指定緊急避難場所へ立ち退き避難します。

避難指示

・災害が発生するなど状況がさらに悪化し、人的被害の危険性が非常に高まっています。
・直ちに立ち退き避難します。

- 社会福祉施設などでは、自力避難が困難な方も多く利用されており、避難に時間を要することから、「避難準備情報」が発令されたら、避難を開始してください※4。

※2 避難情報の入手方法については、裏面をご確認ください。
※3 必ずしも、この順番で発令されるとは限らないので、ご注意ください。

※4 「避難準備情報」等が発令されていなくても、身の危険を感じる場合は避難を開始してください。

ステップ

③

もしもの時に備えて考えておきましょう

- 例えば、以下のような状況も考えられることから、緊急的な対応について、事前に考えておきましょう。

例1: 大雨等により、避難場所までの移動が危険と思われる場合は、近くのより安全な建物(頑丈で上階が浸水しない建物、川沿いでない建物等)に移動しましょう。

例2: 立ち退き避難すら危険と思われる場合は、施設内のより安全と思われる部屋(上層階の部屋、山からできるだけ離れた部屋)に移動しましょう。

参考

避難に関する防災情報の入手方法について

盛岡市からの防災情報

□盛岡市ホームページ

<http://www.city.morioka.iwate.jp/>

市からの防災情報について掲載しています。

□広報車による広報(市、消防署、消防団等)

避難情報を発令した地域等を中心に広報車で巡回します。

□緊急速報メール

市内の携帯電話・スマートフォンへ向けて市からの緊急情報を一斉に配信します。(docomo、au、softbankをお使いの方)

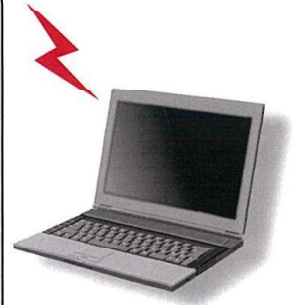
□いわてモバイルメール

岩手県が運用している登録制のメール配信サービスで、気象情報や防災情報等を受け取ることができます。

<http://www.pref.iwate.jp/seisaku/jouhouka/mobilemail/>

□ラヂオもりおか(盛岡FM76.9MHz)の緊急割込放送

市からの緊急情報を通常放送に割り込んでお伝えします。



その他の機関からの防災情報

□いわて防災情報ポータル(岩手県)

<https://iwate.secure.force.com/>

岩手県内の防災情報について掲載しています。

□気象庁ホームページ

<http://www.jma.go.jp>

警報・注意報、台風情報、解析雨量など、気象庁が発表している防災気象情報を掲載しています。

□国土交通省防災情報提供センター

<http://www.mlit.go.jp/saigai/bosaijoho/>

警報・注意報、気象情報、河川情報、降水ナウキャスト等を掲載しています。

□テレビ

ニュースや天気予報番組だけでなく、データ放送では、気象情報や防災情報について常時放送しております。

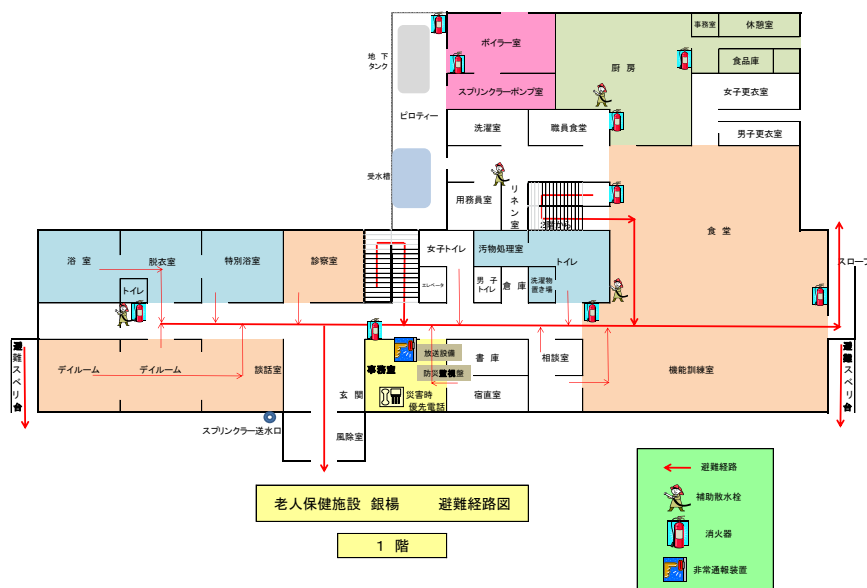


【お問い合わせ先】 盛岡市 危機管理防災課 危機防災係 電話:019-603-8031

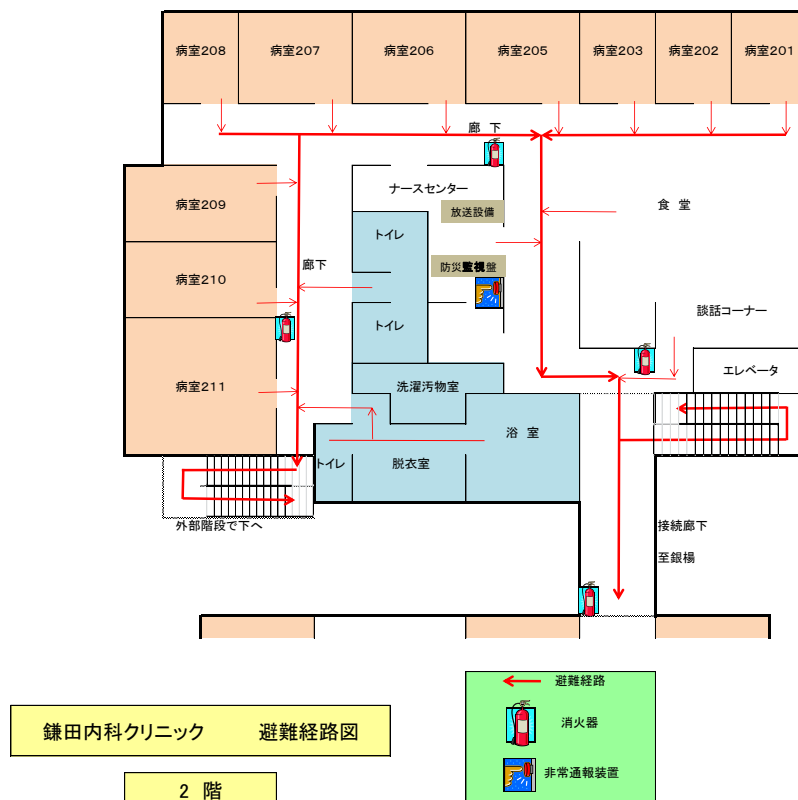
(4) 避難経路の確保

①災害時における避難経路（居室から屋外に至る）を定めた作成し、誰もが確認できる場所に掲示してあります。消火器や補助散水栓の設置場所も表示しています。

【参考】銀楊1階



【参考】クリニック2階



(5) 屋内、屋外の安全対策～**今後の課題**

①窓ガラス等の危険防止対策

- ・ガラス（窓等）には、必要に応じて、飛散防止フィルム等で補強します。

②備品等の転倒防止対策

- ・備品類（机、ロッカー、書棚、大型家電など）は、金具等によって、床や壁にしっかりと固定します。
- ・重いものや、壊れやすいものは、高い場所に置かないよう、安全な収納場所を定めていきます。

③天井からの落下物対策

- ・照明器具や壁掛け時計など、取り付け状態を確認し、落下防止対策を必要に応じて行います。

④屋外対策（看板等、屋外工作物の倒壊防止）

- ・亀裂等の点検を行い、倒壊防止など必要な補修を行います。
- ・施設の構内に、震災などで倒壊の恐れのある工作物（物置、酸素ボンベ等）がある場合は、計画的に点検を行い、必要に応じ固定、補強します。不要物があれば撤去します。
- ・避難経路に設置物がある場合は、必要に応じ転倒防止策を講じます。
- ・屋外設備については。かさ上げ工事や防水工事等を必要に応じて実施します。
- ・屋上排水溝など普段、目にすることがないような場所について計画的に点検、清掃を行います。
- ・台風など激しい風雨が予想される場合は、鉢植え、物干しなど飛散防止を行います。

3. 緊急連絡、災害対応組織体制

- ・緊急連絡網として、第2章－1－（2）で定められている「休日・夜間等における緊急連絡系統図」を活用し、定期的に更新します。
- ・夜間の地震発生時等に施設に参集することができる職員（居住場所や通勤手段によって）を把握したうえで、職員の役割分担を定め、災害発生時に迅速に対応するための体制を整備します。

●地震が発生した場合の参集基準

参集体制	行動基準	参集範囲	連絡体制
警戒参集	・盛岡市で震度4以上 ・地域に大雨、暴風、暴風雪、洪水警報	・理事長 ・統括部長 ・事務長 ・災害対策室各班長	自主参集
非常参集	・盛岡市で震度5以上 ・大災害が予測される	・全員	自動参集

※施設に被害が及んだ場合は、震度にかかわらず、宿直者等が理事長に被害の状況を連絡し、対応について判断を求めます。

☆職員間の非常時連絡時のルール

電話による参集連絡文を下記の通りとし、連絡の迅速化を図ります。

例①「〇〇です。今、△△にいます。あと□□分で到着します。」

例②「〇〇です。××の理由により参集できません。」

例③「〇〇です。被災により参集できません。人的被害は××です。」

例④「〇〇です。被災により参集できません。_____へ避難しています。」

☆夜間の風水害等への対応

台風などの接近により、施設に被害が及ぶ恐れがある場合は、あらかじめ気象情報など必要な情報をインターネットやテレビ、ラジオ等により収集し、夜間の風水害等に対応できる体制を整えておきます。

4. 利用者の安否確認及び保護者等との連絡体制の確立

(1) 安否確認体制、保護者等との連絡体制

災害発生時には、利用者全員の施設内での居場所を把握し、安否確認を行います。また、利用者の保護者等と迅速に連絡がとれるよう、あらかじめ緊急連絡体制を整えます。

(2) 情報通信手段

大災害発生時は、安否確認、見舞い、問い合わせなどの電話が爆発的に増加し、電話がつながり難い状況が1日～数日間続きます。そこで、複数の情報伝達手段を利用し、連絡を取る方法を明示します。

①災害用伝言ダイヤル：171

災害用伝言ダイヤルは、被災地内の電話番号をメールボックスとして、安否等の情報を音声により伝達するボイスメールです。「171」をダイヤルし、利用ガイドンスに従って、伝言の録音・再生を行います。

地震などの災害の発生で被災地への通信が増加し、被災地への通話がつながりにくい状況になった場合に、NTTにより提供が開始されます。

詳しくは～ <http://www.ntt-east.co.jp/saigai/voice171s/goriyou.html>

②災害用伝言版(携帯電話)

震度6弱以上の地震など、大規模な災害が発生した場合に利用可能になります。携帯電話によるメッセージの伝言板の役割を果たします。詳しくは、携帯電話各社のホームページを参照してください。

③災害時優先電話

災害時の公共の秩序を維持するため、地方公共団体やライフライン関係者などの機関を対象に指定されている回線です。「発信」については、一般の回線より優先されます。鎌田内科クリニック(Tel 019-636-1725)が指定されています。

【参考資料】

【災害用伝言ダイヤル（171）の基本的操作方法】

「171」をダイヤルし、音声ガイダンスに従って伝言の録音、再生を行って下さい。

操 作 手 順		伝言の録音		伝言の再生	
①	1 7 1 をダイヤル	1 7 1			
②	録音または再生 を選ぶ。	[ガイダンス] こちらは災害用伝言ダイヤルセンタです。録音される方は1、再生される方は2、暗証番号を利用する録音は3、暗証番号を利用する再生は4をダイヤルして下さい。			
		(暗証番号なし)	(暗証番号あり)	(暗証番号なし)	(暗証番号あり)
		1	3	2	4
		[ガイダンス] 4桁の暗証番号をダイヤルして下さい。 XXXX	[ガイダンス] 4桁の暗証番号をダイヤルして下さい。 XXXX		
③	被災地の方の電話番号を入力する。	[ガイダンス] 被災地域の方はご自宅の電話番号を、または、連絡を取りたい被災地域の方の電話番号を市外局番からダイヤルして下さい 0XX XXX XXXXX			
伝言ダイヤルセンタに接続します。					
④	メッセージの録音 メッセージの再生	[ガイダンス] 電話番号0XXXXXXXX (暗証番号XXXX) の伝言を録音します。プッシュ式の電話機をご利用の方は数字の「1」をおして下さい。ダイヤル式の方はそのままお待ち下さい。なお、電話番号が誤りの場合、もう一度おかけ直して下さい。		[ガイダンス] 電話番号0XXXXXXXXの伝言をお伝えします。プッシュ式の電話機をご利用の方は数字の「1」をおして下さい。ダイヤル式の方はそのままお待ち下さい。なお、電話番号が誤りの場合、もう一度おかけ直して下さい。	
		ダイヤル式電話機 の場合	プッシュ式電話機 の場合	ダイヤル式電話機 の場合	プッシュ式電話機 の場合
		(ガイダンスが流れる までお待ちください)	1	(ガイダンスが流れる までお待ちください)	1
		[ガイダンス] 伝言をお預かりします。 ビップという音のあとに30秒以内でお話下さい。お話が終わりましたら電話をお切り下さい。	[ガイダンス] 伝言をお預かりします。 ビップという音のあとに30秒以内でお話下さい。お話が終わりましたら数字の9を押して下さい。	[ガイダンス] 新しい伝言からお伝えします。	[ガイダンス] 新しい伝言からお伝えします。伝言を繰返すときは数字の8を、次の伝言に移る時は数字の9を押して下さい。
		伝言の録音		伝言の再生	
		(ガイダンスが流れる までお待ちください)	録音終了後 9 [ガイダンス] 伝言を繰返します。訂正されるときは数字の8を押して下さい。再生が不要な方は9を押して下さい。 録音した伝言内容を確認する。	[ガイダンス] お伝えする伝言は以上です。電話をお切り下さい。	[ガイダンス] お伝えする伝言は以上です。伝言を追加し録音されるときは数字の3を押して下さい。 (ガイダンスが流れる までお待ちください)
[ガイダンス] 伝言をお預かりしました。		[ガイダンス] 電話をお切り下さい。			
⑤	終了	自動で終話します。			

覚えてください、災害時の声の伝言板 災害用伝言ダイヤル(171)

5. 施設外の避難場所への避難誘導

水害による床上浸水など、災害の種類に応じて、施設の利用者に危険が及ぶことが想定される場合は、あらかじめハザードマップで示されている避難場所へ避難します。

利用者を避難場所まで安全に誘導するための避難経路や移送手段についても、あらかじめ定めておきます。また、利用者の障害の特性に応じて、利用者一人一人の避難時の注意点をまとめておく必要があります。

(1) 避難経路の選定

施設から避難場所までの避難経路については、避難が想定される災害に応じて、安全かつ適切な道路、移送手段等を選定します。複数の避難場所・避難経路を確認しておきます。

移送手段については、避難場所までの距離や利用者の特性を考慮し、施設の車両に非常持ち出し品や車いす等を、利用者は職員の個人車両に乗り合いでといった、車両の利用が現実的であり、言い換えれば車両による避難が困難な場合は、施設内に留まるという選択も考えられます。当然ながら、災害別の行動チャート等により、判断基準も示されます。

【指定避難場所】

①本宮地区活動センター

(収容人数 147 人)

盛岡市本宮 4-38-26 TEL636-3546

②盛岡市立本宮児童・老人福祉センター

(収容人数 117 人) ※①に隣接

盛岡市本宮 4-38-26 TEL635-4595



【指定避難場所】

③アイスアリーナ・総合プール

(収容人数 3,901 人) ※支援物資搬入施設

盛岡市本宮 5-4-1 Tel658-1212



【指定避難場所】

④大宮中学校

(収容人数 10,817 人)

盛岡市本宮字大宮 5-1 Tel636-3926



※必ず、指定避難所に避難しろということではないこと。

※指定緊急避難場所は、洪水・がけ崩れ・地震・大規模な火事・火山といった異常な現象別に区分されており、必ずしもすべての災害に対応できる施設であるとは、限らないことを留意し、家庭内でも話し合い、理解する必要があります。

留意事項

- ①平成 28 年 3 月現在、上記避難場所を対象とする仙北 1 丁目～仙北 3 丁目、東仙北 1 丁目～2 丁目、西仙北 1 丁目～2 丁目、本宮 1 丁目～4 丁目の住民の数は、15600 人を超えており、小学校・中学校・幼稚園・保育園・病院・診療所等を含めると①～④の収容人数を上回ること。
- ②また避難場所が障害者・要介護者の利用を考慮していても、収容は考慮していないこと。
- ③ハザードマップ自体が、地域の現状に合わせて更新されていないこと。

(2) 非常持ち出し品の準備

非常持ち出し品は、避難場所に援助物資が届くまでの間(2～3 日)に必要な物品等を、持ち出し可能な範囲で想定します。

(非常持ち出し品の例)

非常食、飲料水、筆記用具、懐中電灯、携帯電話、ラジオ、ビニールシート、ゴミ袋、軍手、タオル、ウェットティッシュ、ティッシュペーパー、医薬品、おむつ、緊急連絡一覧表、電池、利用者の服用している薬、毛布、車いす等

(3) 重要書類の保管

- ①重要書類は、耐火金庫に保管します。
- ②非常用持ち出し書類は、最小限と、火災又は爆発の危険性のあるときに限ります。

6. 防災資機材等の備蓄

大規模な災害に備え、利用者の障害の特性を踏まえていかに示す物資等を備蓄していきます。また、消費期限や備蓄数の確認を定期的に行えるような体制を整備し、また備蓄内容についても随時増やすことも必要です。

なお、通所を利用している方々でも、大規模な災害が起こると交通機関がマヒしてしまい、帰宅が困難になることも想定され、施設に宿泊せざるを得ないケースも想定し、食料品等の備蓄をします。

【想定する物品と目安】～日常の業務の中で在庫量を増量することで、随時更新可能な物品もあります。

- ①非常用食料(3 日以上)～利用者の特性に配慮した物。
- ②飲料水(3 日以上)
- ③常備薬(3 日以上)～利用者の日常の内服薬等
- ④介護用品(3 日以上)～おむつ、尿取りパット等
- ⑤照明器具～懐中電灯、電池等
- ⑥熱源～携帯用ガスボンベ等

(1) 非常用備品リスト

区分	No.	品名	規格	数量	保管場所
食料	1	飲料水			
	2	食料品			
	3				
	4				
生活用品	5	毛布			
	6	タオル			
	7	炊き出し用品			
	8	携帯用ポンベ			
	9	紙皿			
	10	使い捨てスプーン			
	11	紙コップ			
	12	ポリタンク			
	13	ティッシュ			
	14	ウェットティッシュ			
各種機材	15	軍手			
	16	マスク			
	17	ビニールシート			
	18	土嚢			
	19	懐中電灯			
	20	電池(単1)			
	21	電池(単2)			
	22	電池(単3)			
	23	電池(単4)			
	24				
その他	25	使い捨てカイロ			
	26				
	27				
	28				
	29				
	30				
	31				
	32				
	33				
	34				
	35				
	36				
	37				
	38				

7. 災害発生時の対応

☆災害発生時は、この災害対応マニュアルに基づいて対応します。

☆利用者の安全確保を最優先とし、復旧に努めます。

☆関係機関への連絡を速やかに行います。

第4章 地震対策

1. 地震発生時の特徴

(1) 施設内の混乱

利用者の中には、施設内をうろついたり、大声を出したり、騒然とした状況が生まれる恐れがあるため、利用者が安心できるよう声掛けやケアを実施する。

(2) 外部との連絡途絶、孤立状態の継続

- ①固定電話や携帯電話の一斉集中から、連絡が取れない状態が続く。
- ②行政機関庁舎の倒壊や道路の損壊等により、行政の災害対策本部の機能がマヒし、情報が入らない。
- ③ローカル放送局の機器が破壊されて、周辺地の被災情報が入手できない。
- ④電気、水道、ガス等の供給が停止し、施設の機能をマヒさせる。

(3) 発生時間による救助への影響

勤務時間外に災害が発生した場合、非番のスタッフ自身が被災したり、被災を免れたとしても、道路の陥没や橋梁部の破損による通行止めから施設への参集が不可能になる事態が考えられる。

(4) 二次災害の発生

地震の後に、火災、津波、土砂崩れが起きる可能性がある。

2. 地震発生時の対応策～（「地震発生時の職員行動チャート」参照）

(1) 安否確認

- ①職員は、利用者の安否および不詳の程度を理事長（又は勤務する最上位職員）に報告するとともに、家族からの問い合わせに応じる。
- ②銀楊事務室に災害対策室を設置する。

(2) 消火活動

①火元の点検

ア. 地震では、大きく揺れる前に通常、小さな揺れがある。この段階で、施設職員が協力して身の回りの日の始末を行うよう努める。

イ. 本震が終わった後は、漏電の有無を確認する。

②消火活動

ア. 出火をみつけたら、煙に惑わされず、直ちに消火活動を開始する。その後、責任者やスタッフ、消防署へ連絡するとともに、理事長は利用者の避難が必要かどうかについて判断を行い、適切な指示を行う。

イ. 電気火災は、感電の心配がある。まず、ブレーカーを落として電源を遮断してから消火する。

※火が発生した場合で、一般的に「火勢が床面だけにとどまり、天井に燃え移っていない」ときは、自力で消火が可能とされている。

(3) 負傷者の有無の確認と救護

①地震がおさまった後、負傷者の有無を確認し、応急手当を施す。

②家族からの問い合わせに対応するとともに、速やかに安全な場所へ移動させるための準備を行う。

③避難の要否を確認の上、安全な場所へ誘導する。

④負傷の状態に応じて緊急救護所や病院に移送する。

※地震時には、エレベータを使用しない。途中停電になると、閉じ込められ、逃げ遅れることとなる。

※エレベータは、停電前に、地震を感知して自動停止機能を備えています。

(4) 情報の収集と発信

①地震発生後、ラジオ・テレビ、市災害対策本部、警察、消防、地域の自主防災組織など施設内外から極力正確な情報を入手し、施設被害の全体像を速やかに把握したうえで、安全性を判断し、的確な指示を行う。

②余震による施設倒壊の心配がなければ、冷静な対応を指示する。

③利用者に現在の災害状況を定期的に伝えて、不安や動揺を与えないようにする。

④市災害対策本部などと連絡を行うとともに、必要な指示があった場合には、直ちに理事長に報告する。

(5) 利用者の避難誘導

①避難の要否の判断

利用者の避難が必要かどうかの判断は、理事長が市災害対策本部、消防署、警察からの指示、周辺の避難状況などから総合的に判断する。

②避難を実施する場合の対応

理事長から避難誘導の指示が出された場合には、速やかに避難を開始する旨を利用者に伝え、安全に避難地まで誘導する手順を指示する。

- ア. 避難誘導が完了した場合には、全員の安全を確認するとともに、避難が完了した旨を理事長に報告する。
- イ. 避難所では、被災地区から多くの住民が集まってくるので、銀楊・鎌田内科クリニックからの避難者であることが分かる緊急避難カードの着用等（これに、こだわりすぎることがないように）を利用して、混乱を防ぐ必要がある。
- ウ. 避難生活では、体調を崩した利用者が出た場合には、迅速に必要な応急処置を行うとともに、受け入れ可能な医療機関や他施設への入院・入所の協力依頼を行う。
- エ. 避難生活がどの程度になるかにより、段階に応じた利用者のケア、スタッフの健康管理などが必要になる。スタッフと打ち合わせを行いながら、必要なケアを計画的に実施する。

③避難が不要な場合の対応

災害発生時は、限られたスタッフ、利用可能な設備や器具、備蓄している食料品等を最大限に利用し、スタッフが協力して利用者の安全確保に当たる。

（６）その他の安全点検

- ①地震などのあとは、漏電、ボイラーの破損など二次災害発生原因になるものを、すぐに点検し、関係業者の判断を得る。
- ②給水、給電などのライフラインや給食等の設備に支障がないかを点検する。
- ③ガラスの破損、備品の転倒、タンクの水、油漏れなどを点検し、必要な清掃を実施する。

３．夜間における地震発生

夜勤帯において地震が発生した場合、他のスタッフの参集を待っていては対応が遅れることから、日頃から、近隣のボランティア、地域住民等と具体的な協力支援を申し合わせしておく必要があるが、地域の自主防災組織も高齢化が進んでいるのが現実である。

また、災害対策本部が起動するまでは、看護職員あるいは男性職員が臨時の管理者になることが想定される。宿直者は、あくまでもサポートする立場である。

（１）夜勤者の対応

①安否確認

夜勤者は、利用者の安否を確認する。

②理事長への報告

利用者の負傷の程度や施設の状況を理事長へ報告し、応援を求める。

➡理事長の判断により消防へ応援を求める。

③火元の点検

本震後、漏電の有無を確認する。←宿直者への指示でよい。

出火を見つけたら、煙に惑わされず、直ちに消火活動を開始する。

④負傷者の救護

安全なスペースへ利用者を移動後、負傷者に対して応急処置を施す。

(2) 他の職員の対応

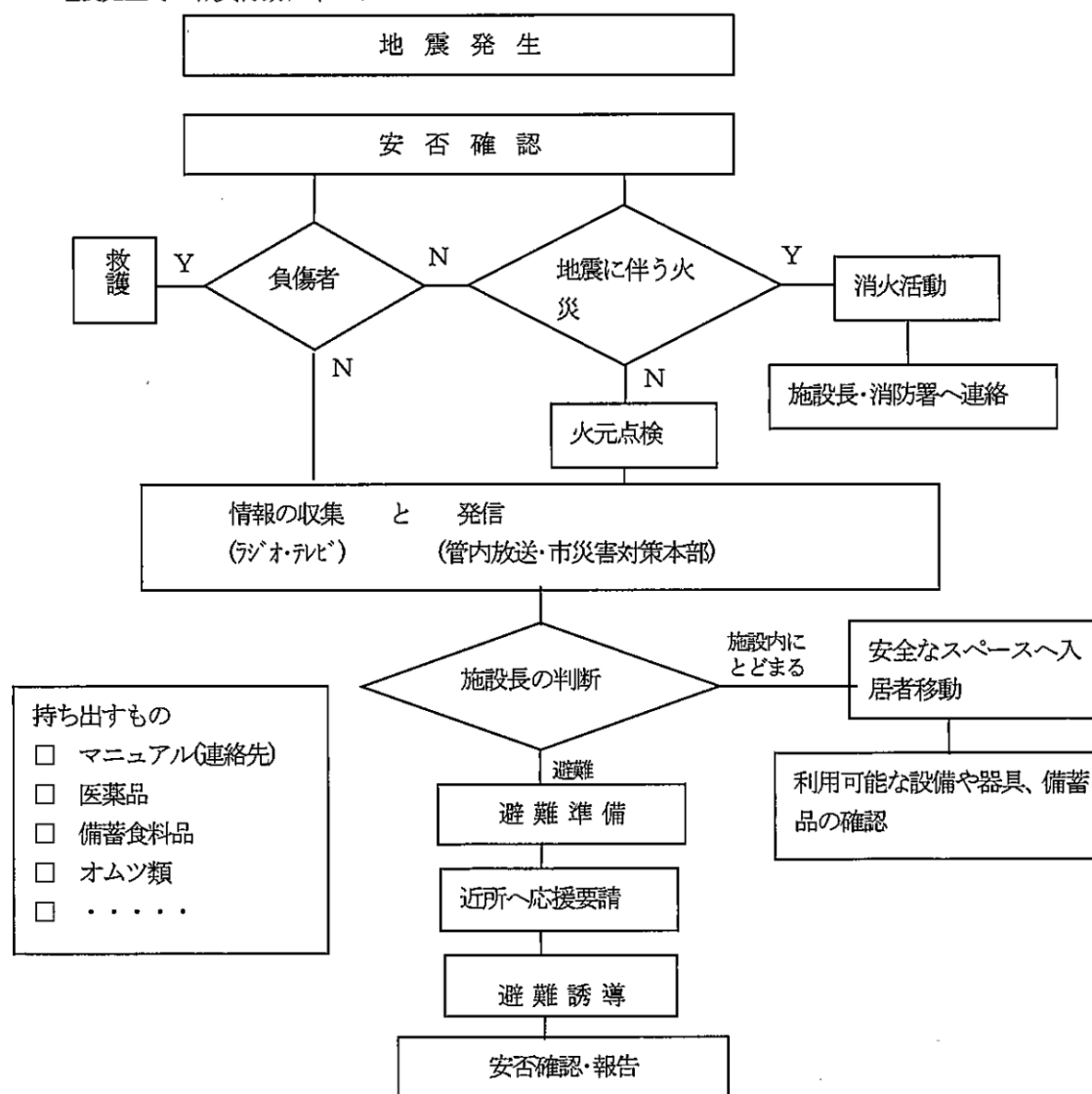
●地震が発生した場合の参集基準

参集体制	行動基準	参集範囲	連絡体制
警戒参集	<ul style="list-style-type: none"> ・ 盛岡市で震度 4 以上 ・ 地域に大雨、暴風、暴風雪、洪水警報 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 理事長 ・ 統括部長 ・ 事務長 ・ 災害対策室各班長 	自主参集
非常参集	<ul style="list-style-type: none"> ・ 盛岡市で震度 5 以上 ・ 大災害が予測される 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全員 	自動参集

※施設に被害が及んだ場合は、震度にかかわらず、宿直者等が理事長に被害の状況を連絡し、対応について判断を求めます。

「地震発生時の職員行動チャート」

地震発生時の職員行動チャート



4. 施設が使用不能となった場合

(1) 利用者の家族等で被災を免れた方がいる場合

状況を説明し、家族等へ引き継ぐ。

(2) 利用者の家族も同時に被災した場合

他の施設等で受け入れてもらうよう依頼する。

5. 施設外活動時や送迎時に地震が発生した場合

高齢者施設においては、施設外活動時や送迎時に被災する可能性があります。特に散歩や通所サービスへの送迎時等の日常活動では、理事長等責任者がその場にいない可能性が高いため、個々の職員の判断を重視した行動が求められます。

①安否の確認と指示体制の確認

利用者等の安否及び不詳の程度を確認し、その場に職員が複数いる場合は、その中から責任者を決定する。

②役割分担

職員の役割分担（情報収集、連絡、救護、安全確認、誘導等）を確認し、速やかにその任務に就き、避難等の対応ができるよう準備する。

③施設への連絡

責任者は、あらかじめ定められた緊急時の連絡手段によって、災害時の総括責任者へ連絡し、判断を仰ぐ。ただし、混線や断線によって連絡がつかない場合もあるので、場合によっては連絡を中止し、各自の判断を優先する。

④負傷者の有無確認と救護

ア. 負傷者の有無を確認する。

イ. 負傷者を速やかに安全な場所へ誘導し、応急手当を施す。

ウ. 負傷の状態に応じて緊急救護所や病院へ移送する。

エ. 場合によっては近隣の住民の協力を仰ぎ、車両などで移送してもらう。

⑤避難の判断

施設に連絡が取れない場合、責任者は周辺の状態等を判断し、あらかじめ定められた避難先への避難を指示する。

施設へ連絡が取れない場合は、施設が被災している可能性も十分考えられるので、施設へ戻るよりも避難を優先する。

⑥避難後の連絡

避難後に安全が確保できたあと、施設へ連絡を取る。

連絡先が不明の場合は、市の災害対策本部や消防機関に問い合わせる。

第5章 風水害対策

1. 警報等発令時の指示体制の周知と情報伝達

(1) テレビ・ラジオ等からの情報入手

- ①マスメディアからの情報に関心を寄せ、理事長(又は臨時の管理者。以下同じ。)は、必要な職員の参集を求める。
- ②市担当課や防災機関と連絡を取り、必要な備えを行う。

【参考】雨の強さと降り方

1時間あたり降雨量	アナウンスの言葉	周囲の状況など
30 mm以上 50 mm未満 (大雨洪水警報)	激しい雨	・危険地帯では避難が必要 ・下水管から雨水が溢れる
50 mm以上 80 mm	非常に激しい雨	・土石流が起こりやすい ・マンホールから水が噴出
80 mm以上	猛烈な雨	・大規模な災害が発生する 恐れが強く厳重な警戒要

- (2) 指示体制の確認 ➡ 情報を正しくスタッフに伝えるため、
理事長に指示体制を一本化する。

(3) スタッフ、利用者への定期的な情報提供

定期的に情報をスタッフや利用者に伝えることにより、施設内の不安を解消する。

(4) 冷静な行動指示

緊急避難の際には、利用者の身体状況に応じて、冷静な対応が取れるよう、避難方法(車いす、ストレッチャー、徒歩等)を確認しておく。

(5) 警戒態勢

- ①気象情報に応じた警戒態勢の準備～大雨洪水警報、暴風警報
- ②河川氾濫時の高台や階上への避難
- ③台風通過時の土砂崩れ、河川氾濫などへの備え
- ④ガラス破損の時の布製ガムテープ準備
- ⑤金具、工具準備
- ⑥車両の安全な場所への移動

【参考】

集中豪雨は予報が困難～注意報や警報は急に出る。常時、情報に気を付ける。 土砂災害は一瞬にして起こる～高齢者は逃げ遅れる危険が大。早めの避難が大切。		
危険な前触れの察知	川の水かさが急激に上昇	水が濁り、流木が流出
崖から音。小石の落下	斜面にひび、変形	崖や斜面から水が噴出
崖からの水が濁る	山がミシミシと音を出す	降水時に川の水位の減少

2. 警報等発令時の役割分担別の準備

(1) 消火活動の準備(暴風警報の場合)

- ①火元の点検、電熱器具を切り、火気使用を制限する。
- ②その他危険物の保管、設置について緊急チェックする。

(2) 救護活動の準備

- ①必要な医薬品、衛生材料が備蓄(在庫)されているかを点検する。
- ②ストレッチャー、車いすなど、救護運搬用具がそろっているか確認する。
- ③利用者の健康状態を確認し、各々に対応した救護活動を準備する。

(3) 緊急物資確保の準備

- ➡備蓄してある食料や機材などを点検し、補充が必要な物は緊急に確保する。

(4) 避難誘導の準備

- ①利用者の避難方法、点呼などの安全確認方法、持ち出し品、責任者などを確認する。
- ②避難経路、避難方法の確認と打ち合わせを行う。

3. 警報等発令時の安全対策の実施

(1) 状況別の避難先選定

①施設内での待機

立地条件も良く、風水害に遭わないと判断される場合には、施設内の安全な場所で待機させる。

②避難地の選定

盛岡市災害対策本部から避難準備情報が出た場合、避難勧告・避難指示がある場合や、理事長が施設内に留まることが危険と判断した場合の避難地を事前に選定する。

(2) 避難手段と避難経路の選択

①避難手段の準備

- ➡河川が氾濫した場合は、車での脱出は困難となるため、その可能性がある場合には、河川の氾濫前に、避難を検討する。

②避難経路の安全性確認

- ➡岩手県や盛岡市の災害対策本部やテレビ・ラジオなどの報道から、あらかじめ決められた安全な避難経路からどれにするか選択しておき、万一の場合に備える。

③誘導方法の確認

- ➡施設の建物外に避難する必要があるときには、防寒など利用者の服装が必要かどうか確認する。

④避難名簿と安全確保

ア. 避難誘導は、利用者の氏名を確認したうえで、悪条件(降雨で冷たい、視界が悪い、足元が悪い、雨音で声が届かない、風が強い等)での移動が予想される中、その状況に応じ、自動車の利用や少人数での移動など、安全な誘導を心掛ける。

イ. 避難地についたら、直ちに点呼により利用者の避難誘導が安全になされたかを確認し、理事長へ報告する。

(3) 家族等への引継要否

①引継要否の判断

➡被害予想に基づき、施設の立地条件、利用者の状態なども判断材料として、家族等への引継を決定する。

②引継日時、引取者の記録

➡引取時の混雑から、人違いで他人へ利用者を引き渡すことが内容、引取に現れた家族等に直接引き渡すとともに、引取者氏名、住所、連絡先、引取年月日、時刻などの記録を必ず残しておくようにする。

4. 災害発生時の特徴

(1) 一瞬の出来事

土砂災害、河川氾濫は、瞬時に発生し、立地環境により局地的に甚大な被害をもたらす。

(2) 外部との連絡途絶、孤立状態の継続

ア. 電気、水道、ガス等の供給が局地的に停止し、施設の機能をマヒさせる。

イ. 復旧までに、相当の期間を要するだけでなく、一旦被災すると、物資の移動や避難が著しく困難となる。

(3) 二次災害の発生

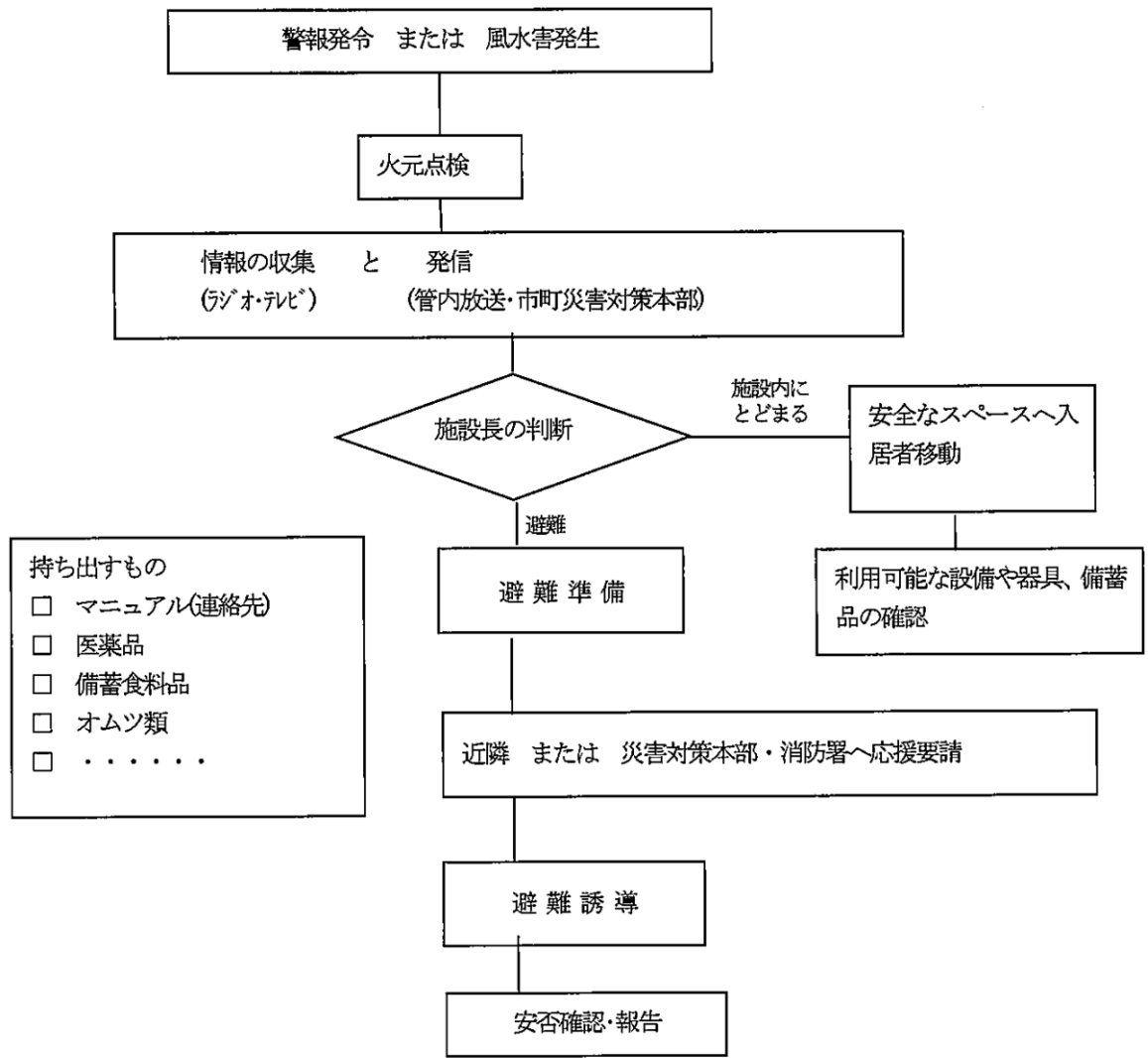
①台風通過後の洪水、冠水、土砂崩れ、橋梁破損

②洪水後の伝染病発生

③落雷後の火災、停電、感電死、家屋の損壊

5. 災害発生時の対応策

～（「警報発令時・風水害発生時の職員行動チャート」）



(1) 情報の収集と避難の開始

- ①ラジオ・テレビ、岩手県・盛岡市の災害対策本部、警察、消防から正確な情報を入手し、理事長は避難の必要性について適切な判断を行う。
- ②過去の災害事例や気象警報、注意報をもとに、高齢者は、避難に十分な時間が必要であることを考慮して、早めの避難措置を講じる。
- ③岩手県・盛岡市の災害対策本部、警察、消防などと連絡を密にし、避難準備等の指示があった場合には、避難体制を直ちに整え、理事長の判断のもと、早めに避難を開始する。

(2) 利用者の避難誘導

①避難先と避難経路の選択

避難誘導にあたっては、避難先や避難経路の状況、周辺地域の被災状況、救助活動の状況など、周辺の様子をできるだけ正確に把握し、避難経路が確保され、可能なあいだに速やかに避難を開始する。(洪水・土砂崩れでは、自動車の避難は困難となる。)

②避難を実施する場合の対応

理事長は避難時期を適切に判断する。避難を開始する場合は、すみやかに利用者に伝え、スタッフに対して安全に避難地まで誘導する手順を示す。

ア. 避難時は、断線した電線に注意する。

イ. 避難誘導の前後に全員の点呼を行い、安全に避難完了したことを理事長に報告する。

ウ. 避難所では、被災地区から多くの住民が集まっており、銀楊・鎌田内科クリニックからの避難者であることが分かるよう緊急避難カードの着用等を利用し、混乱を防止する。

エ. 避難生活で体調を崩した利用者が出た場合は、必要な応急処置を行って、受け入れ可能な医療機関等へ入院等の協力を依頼する。

オ. 避難生活の長期化に伴い、利用者のケア、スタッフの健康管理などが必要になる。スタッフと打ち合わせを行いながら、必要なケアを計画的に実施する。

③風水害・豪雪発生時の利用者等の避難誘導

風水害や豪雪発生時に避難する場合、突然の大雨や強風等に遭遇する可能性もあるため、避難の際は以下の点について特に注意する。

ア. 風害

➡突然強風が発生する場合もあるので、風が弱いと感じても注意する。

➡風が強くなると感じたら、施設に引き返すことを考慮する。

イ. 水害

➡長くつで避難すると、冠水した際に靴に水が入って動きが制限されるため、運動靴等を使用することが好ましい。

➡ガード下、崖下、堤防、橋等の危険な個所は避ける。

➡冠水すると足元が見えにくくなるため、先頭の人は傘や棒等の長いもので足元を確認しながら避難する。

➡危険を感じたら施設に引き返すことも検討する。

ウ. 雪害

- ➡屋根雪が落ちてくる可能性があるので、建物付近を歩く際は注意する。
- ➡足元が見えにくくなるため、先頭の方は傘や棒等の長いもので足元を確認しながら避難するとともに、足元を踏み固めて後続を歩きやすくする。
- ➡視界が悪くなりやすいため、障害物や車などに注意すること。危険を感じたら施設に引き返すことも検討する。

④避難が不要な場合の対応

- ア. 災害発生時は施設自体が安全であっても、状況によっては周辺から孤立した状態になることも考えられる。限られたスタッフ、利用可能な設備や器具、備蓄している食料品等を最大限に利用し、スタッフが協力して利用者の安全確保に当たる。
- イ. ライフライン停止時は暖房装置が使えない。毛布、寝具類の準備が必要となる。

(3) 安全点検

- ①給水、給電などのライフラインや給食等の設備に支障がないかを点検する。
- ②ガラスの破損、備品の倒壊、タンクの水、油漏れなどを点検し、必要な清掃を行う。

6. 施設が使用不能となった場合

(1) 利用者の家族等で被災を免れた方がいる場合

状況を説明し、家族等へ引き継ぐ。

(2) 利用者の家族も同時に被災した場合

他の施設等で受け入れてもらうよう依頼する。

災害対策室(自衛消防組織を基本とする)

